発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町二
電話3033番
編集兼発行人 平島敏治

中労委職権斡旋へ

六日より精力的に事情聴取

重点スト突入いらい七十数日を過した六月三日、中労委より事情聴取午後四時よりの会見で中山会長から〝中労委の立場より職権斡旋を行うので協議されたい〟旨の申入れがなされた。

中山会長斡旋申入れ

正午、中労委松崎事務局が古賀事務局長に電話を午後四時より労使双方について、中山会長が経旨の申入れがあつ

入れを協議し長、古賀事務出席すること者側は務理事小山田九鉱連事務局長が出席していた。この会見で中山会長より次の態度を表明して、職権あっせん乗り出しの立場を明らかにして、協力の要請がされた。

1、争議解決のチャンスは私鉄争議の解決にあつたと思うが、その時機がすぎた。

2、三者構成の事情聴取委員会の設置を提案したがいれられなかつた。

3、今回私が出る態度をきめたのは、労使いずれからも申請または要請されたものではない。政府からも勿論である。中労委という立場で基幹産業の争議をこのまま放置し得ないからである

4、職権アッセンの立場を明らかにして、このことの了解を求めたい。そのために労使の事情聴取をしたいので協力をもとめたい。

5、今回職権アッセンの立場を明らかにしたが、時間が経つたからということでない。四月以降調査も研究もしていたが、時期判断の結果決意したものである炭労では中山会長の職権アッセンについての協力の申入れに対する態度を討議した。午前中戦術委を開き、午後三時より六時四〇分まで中闘を開き、大要次の態度を決定し、応ずる旨を午後十時中労委に回答した。

△職権斡旋に対する態度

職権斡旋の法的根拠から判断して職権に基く事情調査、聴取が行われるであろう。炭労が拒否する態度をとればこの場合、一方的な意志あるいは見解によつて斡旋案が作製されることが予想される。従つてこのような事態は避けるべきである。そのために中労委の申入れに炭労の要求と立場を具体的に説明する必要がある。

△斡旋案に対する態度

われわれは職権にもとずく斡旋案といえども額及び内容が不満な場合は断固これを拒否し、現体制を持続して闘争を続行する。

事情聴取を始む

第一回の事情聴取は五日午後二時五〇分より四時まで中労委会館において労使同席の上行われた。組合側は原委員長、藤岡、野口副委員長、古賀事務局長、岡、野宮次長、直江調査部長、上村給与部長、東海林保安部長、黒田教宣部長、亀山三鉱連委員長、田中古炭連事務局長、我妻北炭労連委員長片山興炭労委員長、滝田三社連委員長、丸岡、久米地方中闘が出席した。

経営者側は田中九鉱連理事長、山之内経協事務局長、松本経協理事外一名、小山田九鉱連事務局長、深谷北炭労働部長、浜田三井労働部長が出席した。

冒頭中山会長より「昨日の申入に協力してくれたことに対して感謝する」旨のあいさつがあり、まず炭労古賀事務局長が要求書提出以来今日までの経過概要を説明、更に直江調査部長より賃金要求について説明を行つた。ついで経協の松本常務理事より経過報告については古賀局長の通りである。経協としての要求書に対する態度として去る四月二十二日団交における会社回答文をそのまま読みあげたその後炭労よりこの斡旋に宇部興産は含まれているかを質問、これに対して中山会長は、形式的には宇部興産の会社代表を呼んではいないが、本質的には含んでいるものである旨の回答があつた。なお終了に当り会長より「早期に解決したいので、時間が不規則になるかもしれないが、随時応じられる態勢をとつてもらいたい」という要請が行われた。

十日に提示か

つづいて六日、午後二時二十分より三時二十分まで炭労側の事情調査が行われた。

中労委中山会長外二名、炭労は原委員長外十八名が出席した。

会長から「本日（六日）双方の主張を聞き、明日（七日）労使同席の上これを照合調査したい」と発言があり炭労はこれを了承した。資料により直江調査部長が要求額は支配可能なものであるし、また労働者の実態からも実現するのが当然である旨を数字を挙げて具体的に説明した。

これに対し中山会長より「坑内外の賃金格差が大きいが、これを是正する必要はないか。例えばある時期に坑外のみの賃金引上げなどの方法はどうか」という質問があつた。

炭労はこれに対し「現在の要求は坑内外一律方式である。坑外も低いが、坑内も他産業、諸外国にくらべれば明らかに低いものであり双方賃上げすべきである」と答えた。

さらに中山会長より次の要望がなされた。

(1) 要求が数項目に亘つているので、できればこれをしぼつてもらいたい。

(2) 斡旋の日時について他から聞かれているので十日、十一日どろに提示したいと考えているがどうか。

炭労はこれに対し、(1)については異存はない。日時について引延ず考えはない。だからといつて早急にしなければ内部がどうということもない。炭労の賃金、生活実態を十分考えてやつてもらいたい。

なお、午後四時より経営者側と事情聴取が行われる。

明日（七日）午前中、炭労、会社同席の上それぞれの主張を聞合わせる。

午後炭労の細部事情調査を行う。

（十日の電話情報によると）

江口鉱また災害

九炭労、会社に反省促す

中興労組の支部である江口炭鉱（組合員五七〇名）で五月七日二、三番方交替時の午後十時四十分ごろ、第二坑道二卸（坑口より一、八二一米）で出水し一瞬にして二十九名の犠牲者を出すという戦後最大の惨事が起つた。九州炭労では光永労働部長、長崎地区炭地共傘下の保安担当者が現地に急行し当面の急務である排水対策に重点をおいて活動を開始した。

調査団が出水災害の原因を究明した結論として、その出水源は旧大成坑の古洞の滴水と地下水脈よりの湧水量が毎分四立法メートルと推定され、大成坑に流れこんでいると判断された。

従つて江口坑本坑の水を早急に完全排水は当然であるが、併せて水源と目される旧大成坑を洞潤させる必要から、坑口から斜坑底二四〇米の位置に第二バツクを作り揚水をする計画をたて、現在坑口より一五〇米の位置まで坑道補修と排水とを併行して進行した。

たまたま罹災個所は地獄天井で、二十九日ごろより側圧があり強行して崩落の危険性が予知されたので、坑道固めのため係員を含め七名の作業員に指示し、間枠入れ作業を実施した。

三十日午前〇時ごろ、一名の作業員は時間を知るため中段ポンプ室に行き、午前〇時十五分ごろ個所に来てみると倒枠し、側壁が倒壊落盤があり係員を含め六名の作業員が生埋めとなつている災害現場を発見し急報して応援を求め救出作業を開始した。作業員の献身的な努力により、係員外一名は負傷もなく救出したが、二名死亡、一名重傷、一名軽傷の災害となつた。

この重なる重大災害に九州炭労としては保安調査団を繰り出し、徹底的に調査した結果、今回災害発生の背面に労働者の要望や報告を無視し前時代的人命軽視の生産強行によつて惹起された災害であり、このことは経営首脳者の経営感覚の問題をみのがす訳にはいかないとして、今後この種災害を発生させないため、ただ単に保安上の面ばかりでなく広く経営方針に関しても根本的に検討反省を加え事後処理と対策に誠意をもつて当るよう抗議の申入れを行つている。

進前

一九五七年度の終り に臨んで

本紙が配付されるころには三十三年度の新執行部と決議機関の陣容が決定されているであろうが、新らしい執行部の抱負は次号に譲るとして旧年度の衣替えをするに一年間の歩みを振り返つてみとの中には新年度解決せねば仕事がたくさん横わつ

労働運動一般を概へ地回復というか、その戦線つがあり、組攻勢に転じして強

図を持つ闘いに対面させられていることを物語つているものであろう。

× × ×

このような一般的状態の中で三池に現われた特徴は会社の巧妙なPR、HR活動と共に職場闘争に対する異状な抵抗であつた。即ち職場交渉を回避する反面、要求事項はますます解決が長びき、いわゆる会社側の筋「職場秩序」との闘いが正面に出はじめた訳であるわれわれは敵の挑発に乗らず、問題の本質を理解するために、職場闘争について慎重な討議を深めて予想される熾烈な闘いに備えねばならない。

第二に組織強化は昨年の行動方針の最大任務であつたが、行動隊の編成や、労働講座、地域連絡協議会の結成など当面の目的は一応達成されたものの、これら組織の充実と質的活動はこれからという処であり、社会活動の進展を掲げる本年度の課題の一つであろう殊に参院選と地方選挙を明年に控え政治中闘の進出が絶対的任務となつている。本年度に於ては、さきの知事リコール闘争並びに衆院選を十分に反省してその対策に万全を期せねばならない。

第三は機械化対策の問題であろう。生産性向上運動と機械化対策は不可分の関係にあり、石炭産業でも各企業毎に近年いちじるしい機械化の傾向が見られる。われわれが当面している問題はホーベルの導入、スライシング採炭方式、水圧カツペの試用、及び大型炭車を含む運搬系統の合理化であるがこのような機械化、合理化に対する態度としてわれわれは合理化そのものに反対するものではなく、その及ぼす悪影響について、これを排除するという立場を取つて来た。或いはまた機械化による労働条件の変化につき、具体的にその向上を図つて来たが、今次の成否が今後の交渉のバロメーターともなることを考えると、さし当つて関心の持たれる懸案事項である。

何れにせよ総評を後退せしめることによつて保守陣営の安泰を企図しようとする巨大な総資本との闘いが昨年度から本格的軌道に乗つて来たことを忘れてはならないであろう。

八日に表彰式

永年勤続二五八〇名

昭和三十三年度上期永年勤続者東京旅行は、去る五月二十日九十八名が大牟田を出発して、晴れの旅行を行つたが、鉱員永年勤続表彰は八日体育館で挙行される。

今年度の表彰者は総員二・五八〇名、うち十年勤続者二二四（宮）二六〇（三）二四五（本）一〇五（港）六一（作）の計一・〇〇六名となつている。

十五年勤続者、一〇七（宮）六二（四）一四九（三）四七（本）三九（港）一二五（作）の計五二九名。

二十年勤続者は一六一（宮）一〇〇（四）二三三（三）一〇二（本）九六（港）一〇三（作）の計七九五名。

二十五年勤続者、六〇（宮）七三（四）五二（三）六（本）四（港）の計一九五名。

三十年勤続者は二〇（宮）一六（四）一五（三）一（本）三（港）の計五五名である。

八月に東京で

原水爆禁止大会

【KNA】原水爆禁止日本協議会は五月十五日、東京神田の一橋講堂で常任理事会をひらき、来る八月に予定されていた第四回原水爆禁止世界大会の日程、議題について つぎのようにきめた。

第四回大会はこれまでの多数の日本代表と少数の外国代表との会議というような方式をあらため、日本大会と国際会議とをはつきりわけてひらく。日本大会には国内各地、各団体から約六千人、国際会議には外国代表二百―三百人が参加する予定。再会議の日程は

△日本大会▽八月十二日＝開会、総会、十三日＝分科会（議題別）十四日＝階層別協議会、十五日（午前中）＝総会、宣言、決議、閉会。

△国際会議▽十五日（午後）＝開会式、二十日＝世界大会宣言、閉会式。

新内閣と二つの外交問題

長崎市でひらかれた切手展示会

長崎市でひらかれた切手展示会場においての国旗引降し事件を、岸総理、藤山外相は総選挙中、社会党に対する援護政策だから、選挙が終れば解決出来ると自信ありげに遊説していたが、楽観論と反対に、中共の態度はますます硬化して来た。岸総理は国旗は引降したのでなく、無名の青年が落ちていたのをひろつたとか、真相は別として、第四次貿易協定破棄による三〇〇中小商社の、三五〇億円に上る巨額の輸出停止と、出品中の六億円見本引取りに対する一億円の損害のみならず、業者の打撃はひどく、秋どころまでに倒産が相当出ると伝えられ、選挙口約の中小企業育成でなく、企業倒産と失業者を生み出す結果となるのは必至である。業者としては一億の損失補償と、第四次貿易協定完全支持協力と、長崎事件円満解決を切望しているが、当然すぎるほど当然な要求であるが、二十四日岸総理の記者会見では、中共側が誤解をとくまで待ちあわてて手を打つ必要がない。一時貿易が停滞しても仕方がない、と極めて無責任な冷淡な態度である。面子や感情にこだわつている間に英国や西独は中国市場食い込みに努力しているので、政府も重大な岐路にたつていることをハツキリ認識し、一日も早く正常な外交政策と取り組むべきであり、簡単に解決できぬかも知れないが、中国市場を失う前に面子や感情を一切抜きにして、日本経済発展のため最善の努力をすべきである。

次は、二十三日の米上院外交委員会は、日本繊維品の締出しと、ゴム靴関税引上げなど、派閥争いとか大臣の椅子の取り合いとか、選挙資金取り返しの汚職政治を一切やめ、公約を忠実に実行することが国会議員として国民の支持に対し答える義務を忘れてはならない。自民党当選議員の中にも、政治家でなく一個の職業であるという不心得者がいることも、主権者として一応自己反省し、任期中勤務評定をすべきであり、この点中小企業者は選挙結果を見て、自分で支持した議員に対してはとくに監視し、一票が無駄にならぬよう望みたい。

（本所 大橋 横一）

▼みんなが云いたい事をみんなが聞くべきだ▼一口が一生を明るくする▼天性は苦労の中から